

研究ノート

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催地の住民におけるスポーツ振興に関する要望と期待される効果に関する研究

秋 吉 遼 子
上 代 圭 子

A Study of the Awareness of Sports Promotion and Expected Impact of the Tokyo 2020 Olympics among Residents of a City Serving as a Venue for TOKYO 2020

AKIYOSHI, Ryoko
JODAI, Keiko

Abstract

The purpose of this study was to examine the awareness of sports promotion among residents of Kawagoe city, which is one of the venues for the Tokyo 2020 Olympics and the expected impact from such event. The sample of this study was the participants and spectators in a marathon event in Kawagoe city. The main results of this study were as follows:

- 1) The residents of a venue site for the Tokyo 2020 Olympics expect increased opportunities for daily sport activities such as the holding of various sport events, competitions, and school physical education classes and maintenance of school facilities.
- 2) Most of the residents expect social impacts as the likely result from the Tokyo 2020 Olympics and three out of four are in favor of Tokyo hosting Olympics.
- 3) Residents of other areas outside of Kawagoe city have more expectation of increased park and recreation facilities in Kawagoe city as a result of the Tokyo 2020 Olympics than do the residents of Kawagoe city.

Key words: TOKYO 2020, sports promotion, impact, local residents, Kawagoe city

キーワード：東京2020大会，スポーツ振興，効果，地域住民，川越市

目 次

- I. 緒言
- II. 研究方法
 - 1. 調査対象
 - 2. 調査方法
 - 3. 調査項目
 - 4. 分析方法
- III. 結果と考察
 - 1. サンプルの個人的属性とスポーツ実施頻度
 - 2. スポーツ振興に関する要望
 - 3. イベントへの関わり
 - 4. 東京2020大会開催により期待される効果と支持
- IV. まとめ

I. 緒 言

近年、スポーツ振興に様々な観点から取り組む自治体が急増している。市民参加型のスポーツイベントは全国各地で活発に行われており、スポーツイベントは全国で誘致されている。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会（以下、「東京2020大会」）開催決定後は、事前キャンプの誘致合戦も白熱している。¹⁰⁾自治体が、スポーツイベントの誘致や東京2020大会の事前キャンプに力を入れている理由は、開催地に経済的効果や社会的効果があり、^{5) 18)}地域活性化につながるのではないかと期待されているからである。埼玉県川越市も例外ではない。川越市では、東京2020大会のゴルフ競技が開催される予定であることから、川越市内の関係団体で構成される「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会川越市支援委員会」における検討だけでなく、市民の協力を得ながら、地域の活性化に取り組んでいる。⁶⁾

しかし、オリンピックのようなビッグスポーツイベントの開催は、開催地に多くのスポーツツーリストを呼び込むが、良くも悪くも開催地の住民に影響を及ぼすことが実証されている。^{13) 16)}そして、地域のサポートなしに、持続可能なツーリズム産業を発展させることは困難である。²⁾そのため、地域で開催されるスポーツイベントに対する地域住民の態度を明らかにすることは、今後のまちづくりの観点から意義があると考えられる。

内閣府¹²⁾は、東京2020大会の開催で期待される効果として、「スポーツ（障がい者スポーツを含む）の振興」を4割の人が挙げていることを報告しており、スポーツ振興を望む人が一定数いることは明らかになっている。しかし、東京2020大会開催の影響を良くも悪くも受けるであろう開催地の住民が、どのようなスポーツ振興を具体的に望んでいるかは明らかになっていない。そのため、東京2020大会開催に向けて、かつ東京2020大会開催後のスポーツ環境を長期的なスパンで考えていくためには、東京2020大会開催地の住民のニーズを把握することは重要であると考えられる。そこで、本研究の目的は、東京2020大会の競技会場がある川越市の住民におけるスポーツ振興に関する要望と東京2020大会開催の期待される効果を明らかにすることとする。

なお、本研究では、川越市の住民と川越市外の住民で比較することとした。その理由は、川越

市の住民の特徴をより明確にするため、加えて、居住歴やツーリズムへの関与が効果の認知に影響を及ぼすことから、^{3) 15)} 川越市の住民と川越市外の住民とでは、東京2020大会開催に伴う川越市への期待される効果が異なることが推測されるためである。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査対象

調査対象は、川越市で行われている「小江戸川越ハーフマラソン」の参加者、観戦者、ならびに近隣住民である。なお、小江戸川越ハーフマラソンは、毎年、川越市で開催されている。川越市は、埼玉県の中央部よりやや南部にあり、都心から30 kmの首都圏に位置する。35万人を超える人口を有する都市であり、近郊農業、流通業、商工業、観光など、充実した都市機能を有している。⁷⁾ 2015年の入込観光客数は、6,645,000人であり、⁸⁾ 増加の一途を辿っている。その川越市で開催されている小江戸川越ハーフマラソンは、ハーフ、10 km, Fun Run (約4 km) の3種目があり、約1万人が参加している。

2. 調査方法

平成27年11月29日に開催された小江戸川越ハーフマラソンの参加者、観戦者、ならびに近隣住民に対し、直接配布回収による質問紙調査(別紙1)を行った。小江戸川越ハーフマラソンのハーフと10 kmの参加者に対しては、スタートとゴールがある川越水上公園において、Fun Runの参加者に対しては、ゴールの川越市役所南側駐車場において、調査を行った。観戦者と近隣住民に対しては、コースの沿道において調査を行った。調査員は、事前にトレーニングされた14名である。回収数ならびに有効回答数は530票であった。

3. 調査項目

調査項目は、スポーツ実施頻度、スポーツ振興に関する要望、イベントへの関わり、東京2020大会開催により期待される効果、東京2020大会開催の支持、個人的属性である。スポーツ実施頻度とスポーツ振興に関する要望は、文部科学省¹¹⁾の項目を援用した。イベントへの関わりは、Kenyon⁹⁾と山口¹⁹⁾による資料を参考に、川越市のスポーツイベントと川越市のイベント(スポーツ以外)に対して、参加者、観客、及びスタッフ・ボランティアとしての関わりの有無を、東京2020大会においては、参加者、観客、及びスタッフ・ボランティアとして関わることを希望するか否かを問うた。東京2020大会開催により期待される効果については、先行研究^{2) 4)}を基に、日本で妥当性と信頼性が検証されている18項目(社会的効果5項目、環境的効果4項目、経済的効果3項目、否定的な影響6項目)^{1) 14) 17)}から、スポーツ社会学が専門の研究者2名と川越市のオリンピック大会準備室3名の計5名で協議を行い、川越市の状況に見合うよう修正を施した。そして、プレテストを33名に対して実施し、最終的に16項目を設定した(社会的効果5項目、環境的効果4項目、経済的効果3項目、否定的な影響4項目)。東京2020大会開催の支持については、1項目を設定した。東京2020大会開催の期待される効果と支持については、ともにリッカートタイプの5段階尺度(1:「とてもそう思わない」～5:「とてもそう思う」)を用い、等間隔尺度を構成するものとして仮定した。個人的属性は、性別、年齢、居住地、居住歴、職業の5項目を設定した。

4. 分析方法

川越市の住民と川越市外の住民で比較を行うため、 χ^2 検定を行った。本研究における統計的な処理は、SPSS23.0を使用した。

Ⅲ. 結果と考察

1. サンプルの個人的属性とスポーツ実施頻度

サンプルの居住地は、川越市が58.9%、川越市外が41.1%であった。そして、表1は、居住地別のサンプルの個人的属性とスポーツ実施頻度を示している。性別は、川越市の住民は男性が56.5%、女性が43.5%であった。川越市外の住民は男性56.8%、女性が43.2%であった。年代については、川越市の住民は40代（34.0%）が最も多く、次いで30代（20.0%）であった。川越市外の住民は40代（30.7%）が最も多く、次いで20代（24.9%）であった。川越市の住民における川越市の居住歴は、40～49年が2割を超えた。職業は、川越市の住民は会社員（32.3%）が最も多く、次いで自営業（15.2%）であった。川越市外の住民は会社員（60.4%）が圧倒的に多かった。

過去1年間のスポーツ実施頻度について、川越市の住民は「週に1～2日」（31.6%）が最も多く、次いで「月に1～3日」（17.4%）であった。川越市外の住民は「週に1～2日」（37.4%）が最も多く、次いで「月に1～3日」（21.0%）であった。居住地で比較した結果、川越市の住民より川越市外の住民の方が、日常的にスポーツを実施していることが明らかになったが（ $p < .05$ ）、川越市の住民においても、全国調査¹²⁾の結果と比べると、より多く日常的にスポーツを実施している結果となった。これは、マラソンイベントにおいて調査したことに起因していると考えられる。

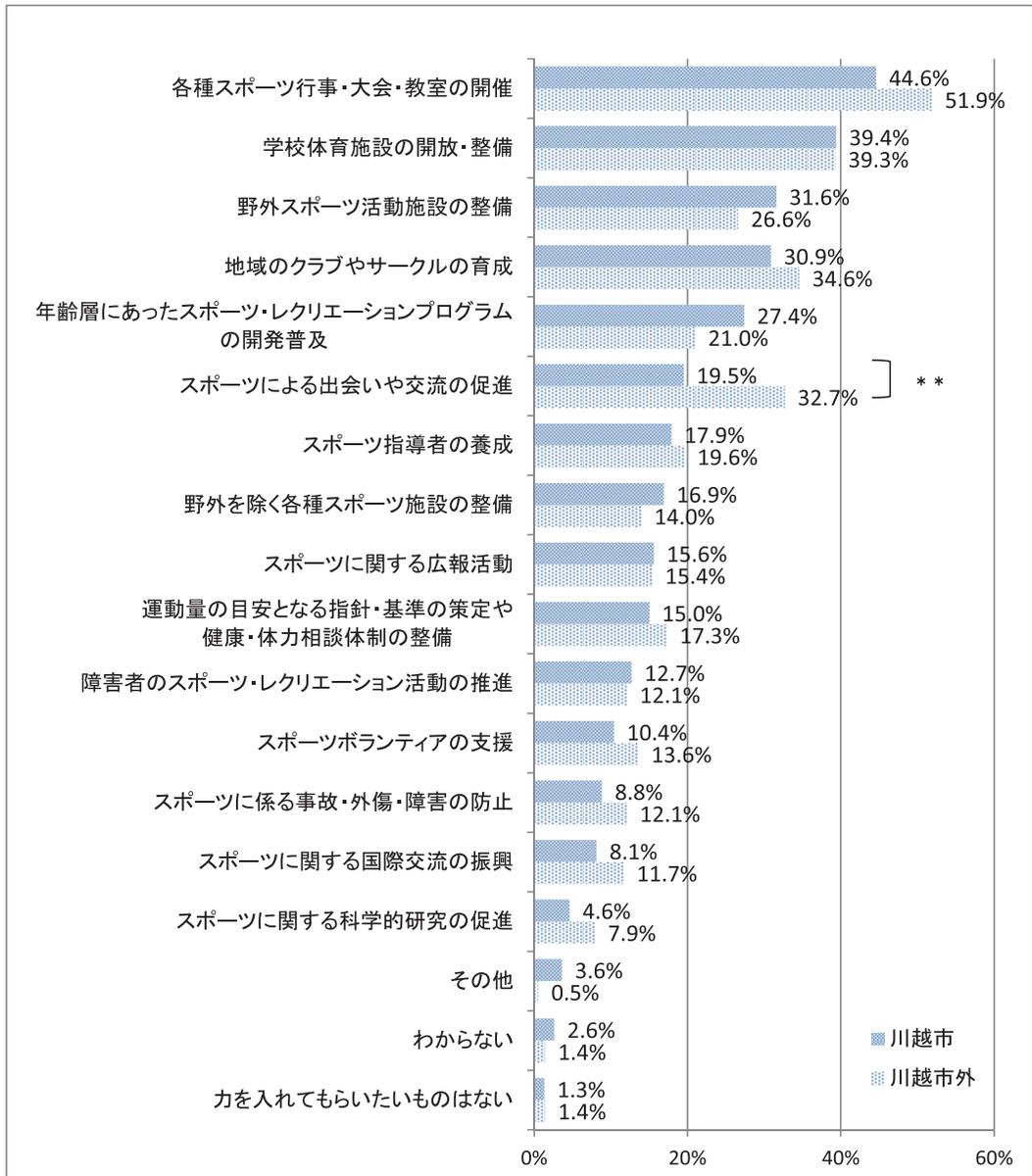
2. スポーツ振興に関する要望

スポーツ振興に関する要望については、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」（川越市44.6%、川越市外51.9%）、「学校体育施設の開放・整備」（川越市39.4%、川越市外39.3%）、「野外スポーツ活動施設の整備」（川越市31.6%、川越市外26.6%）、「地域のクラブやサークルの育成」（川越市30.9%、川越市外34.6%）を要望する人が多い（図1）。この結果は、文部科学省¹¹⁾が行った全国調査よりも、要望する人が多い傾向にある。その理由として、本研究の限界にも関係する

表1 サンプルの個人的属性とスポーツ実施頻度

		川越市		川越市外			川越市		川越市外		
		%	n	%	n		%	n	%	n	
性別	男性	56.5%	147	56.8%	108	職業	会社員	32.3%	98	60.4%	128
	女性	43.5%	113	43.2%	82		公務員	11.6%	35	12.7%	27
年代	10代	3.0%	9	2.9%	6		自営業	15.2%	46	6.1%	13
	20代	9.7%	29	24.9%	51		学生	6.3%	19	6.6%	14
	30代	20.0%	60	22.9%	47		専業主婦	9.9%	30	6.1%	13
	40代	34.0%	102	30.7%	63		パート・アルバイト	13.5%	41	5.2%	11
	50代	9.0%	27	11.2%	23		無職	7.3%	22	0.9%	2
	60代	12.3%	37	6.3%	13		その他	4.0%	12	1.9%	4
	70代以上	12.0%	36	1.0%	2		週に3日以上	14.5%	44	18.7%	40
川越市の居住歴	9年未満	14.8%	44				週に1～2日	31.6%	96	37.4%	80
	10～19年	19.8%	59			月に1～3日	17.4%	53	21.0%	45	
	20～29年	10.1%	30			3ヶ月に1～2日	9.9%	30	7.0%	15	
	30～39年	15.1%	45			年に1～3日	9.9%	30	6.1%	13	
	40～49年	21.8%	65			しなかった	16.8%	51	9.8%	21	
	50年以上	18.4%	55								

* $p < .05$



**p < .01

図1 スポーツ振興に関する要望

が、本調査はマラソンイベントにおいて調査したことから、普段からスポーツを実施し、スポーツ環境と触れ合い、現状を知っている人が多いことが、その原因と考えられる。

また、相対的に川越市の住民より川越市外の住民の方がスポーツ振興に要望があると言えるが、特に「スポーツによる出会いや交流の促進」において有意な差がみられ、川越市の住民より川越市外の住民の方が望んでいることが明らかになった。その理由として、スポーツイベントに参加

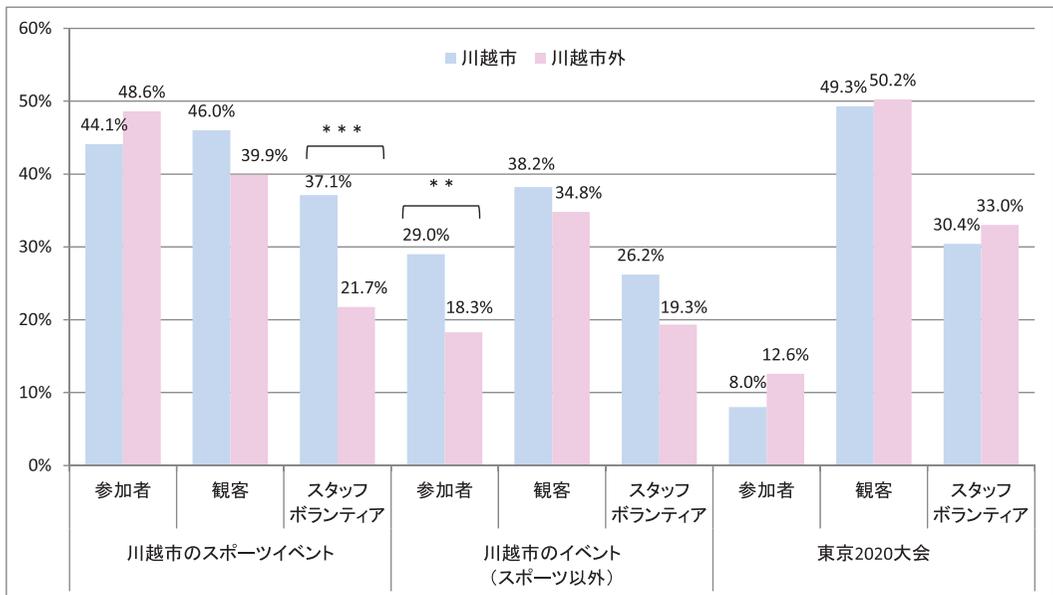
する人は、スポーツをすることに加えて、他者との交流を求めていることから、川越市のスポーツイベントに参加していると予想される。

3. イベントへの関わり

イベントへの関わりについて、過去の川越市のスポーツイベントへの関わり方としては、参加者と観客がスタッフ・ボランティアよりも多い傾向にある(図2)。川越市のイベント(スポーツ以外)への関わり方としては、観客が最も多い。また、東京2020大会への関わり方の希望としては、観客が最も多いことが明らかになった。居住地で比較した結果、川越市外の住民より川越市の住民の方が、川越市のスポーツイベントにおけるスタッフ・ボランティアとして、川越市のイベント(スポーツ以外)における参加者として関わっていることが明らかになった。これは、物理的な距離が影響していると考えられる。

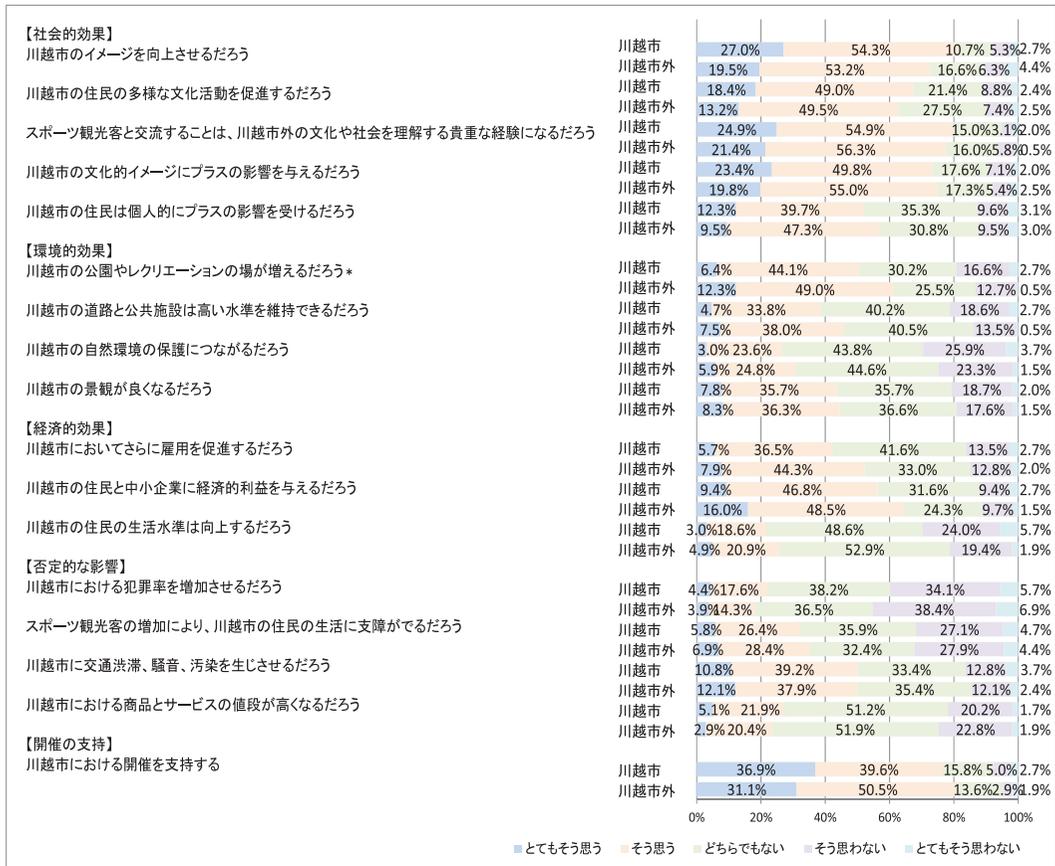
4. 東京2020大会開催により期待される効果と支持

東京2020大会開催により期待される効果に関して、相対的に、社会的効果が最もあると期待している人が多いことがうかがえる(図3)。社会的効果について、「川越市のイメージを向上させるだろう」、「スポーツ観光客と交流することは、川越市外の文化や社会を理解する貴重な経験になるだろう」、及び「川越市の文化的イメージにプラスの影響を与えるだろう」は、7割以上の人が、期待される効果だと認識している。すなわち、東京2020大会の開催は、開催地のイメージ向上につながることを期待している人が特に多いことがわかる。環境的效果については「川越市の公園やレクリエーションの場が増えるだろう」とし、経済的效果については「川越市の住民と中小企業に経済的利益を与えるだろう」が最も効果があると期待されている。否定的な影響は「川越市に交



p < .01 *p < .001

図2 イベントへの関わり



*p < .05

図3 東京2020大会開催により期待される効果と支持

通渋滞、騒音、汚染を生じさせるだろう」が最も影響があると感じている。居住地で比較した結果、川越市の住民より川越市外の住民の方が、「川越市の公園やレクリエーションの場が増えるだろう」と感じていることが明らかになった。すなわち、川越市の住民より川越市外の住民の方が、東京2020大会の開催によって、川越市内にスポーツをすることができる環境が増えると予想しているということである。

東京2020大会開催の支持については、否定的な影響があると感じているものの、開催を支持している人が多いことが明らかになった（川越市76.5%、川越市外81.6%）。しかし、居住地で比較した結果、有意な差はみられなかった。このことから、川越市の住民も川越市外の住民も、東京2020大会の会場のひとつが川越市内にあることに対して、好意的に捉えている人が多いことが明らかになった。

IV. まとめ

本研究の目的は、東京2020大会の競技会場がある川越市の住民におけるスポーツ振興に関する

要望と東京2020大会開催により期待される効果を明らかにすることである。主な結果は以下の3点である。

1. 東京2020大会の競技会場がある地域の住民は、スポーツ振興の具体的な方策として、各種スポーツ行事・大会・教室の開催や学校体育施設の開放・整備等、日常的なスポーツ活動の機会の増加を望んでいる。
2. 東京2020大会の競技会場がある地域の住民は、東京2020大会開催の効果として、社会的効果に最も期待している傾向にあり、4人に3人が開催を支持している。
3. 東京2020大会の競技会場がある地域の住民より、他の地域の住民の方が、東京2020大会開催により、公園やレクリエーションの場が増えると期待している。

本研究の限界として、マラソンイベントにおいて調査を実施したことから、スポーツや東京2020大会に対して好意的な態度の人がサンプルに多いことが考えられ、一般化できない点がある。しかし、本研究は、以下2点の有益なインプリケーションを与えると考える。

1点目は、東京2020大会の競技会場がある自治体は、東京2020大会の開催のみに力を注ぐのではなく、東京2020大会前後の住民のスポーツ機会の創造も継続的に行っていく必要がある。川越市の住民の4人に3人が東京2020大会の開催を支持しているが、各種スポーツ行事・大会・教室の開催や学校体育施設の開放・整備等、日常的なスポーツ活動の機会の増加を望んでいることも事実である。

2点目は、スポーツイベントを開催する自治体や主催者は、スポーツイベントにおいて参加者同士や地域住民との交流の場を積極的に設けることである。川越市の住民より川越市外の住民の方が「スポーツによる出会いや交流の促進」を望んでいたことが、本研究の結果から明らかになった。交流できるようなプログラムを設けることで、地域外からの参加者等が集まり、地域活性化につながる可能性がある。

謝 辞

平成27年度地（知）の拠点大学における地方創生推進事業地域志向教育研究経費を受けて実施しました。また、川越市政策財政部オリンピック大会準備の担当者の協力を得て、調査を行いました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 秋吉遼子・山口泰雄・朴永灵・稲葉慎太郎(2012) スポーツ観光の効果に関する研究——沖縄県名護市のケーススタディ——. 日本体育学会第63回大会体育社会学専門領域発表論文集, 20: 87-92.
- 2) Anderech, K. L. and Vogt, C. A. (2000) The relationship between residents' attitudes toward tourism and tourism development options. *Journal of Travel Research*, 39(1): 27-36.
- 3) Ap, J. (1992) Residents' perception on tourism impacts. *Annals of Tourism Research*, 19(4): 665-690.
- 4) Hritz N. and Ross C. (2010) The perceived impacts of sport tourism: An Urban Host Community Perspective. *Journal of Sport Management*, 24: 119-138.
- 5) 一般財団法人長野経済研究所 (2014) 平成26年度スポーツ政策調査研究（スポーツの経済効果に関する調査研究）調査報告書。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/fieldfile/2014/12/08/1353860_1.pdf
- 6) 川越市 (2016a) 第四次川越市総合計画。
<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/shisei/seisakushisaku/sogokeikaku/gikisogokeikaku/4thsogo-keikaku.files/ikkatsu.pdf>
- 7) 川越市 (2016b) 川越市役所ホームページ. 川越市のプロフィール.

- <https://www.city.kawagoe.saitama.jp/shisei/shinogaiyoshoukai/kawagoe/220141225.html>
- 8) 川越市 (2016c) 川越市役所ホームページ. 川越市入込観光客数.
<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/welcome/kankobenrijoho/kankotokeishiryo/irikomi.files/irekomi27.pdf>
 - 9) Kenyon, G. S. (1969) Sport involvement: A conceptual goal and some consequences thereof. In G. S. Kenyon (Ed.), *Sociology of Sport*. Chicago: The Athletic Institute.
 - 10) 間野義之 (2015) 奇跡の3年2019・2020・2021 ゴールデン・スポーツイヤーズが地方を変える. 徳間書店: 東京.
 - 11) 文部科学省 (2013) 体力・スポーツに関する世論調査.
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa04/sports/1338692.htm
 - 12) 内閣府 (2015) 東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査.
<http://survey.gov-online.go.jp/h27/h27-tokyo/index.html>
 - 13) Ohmann, S., Jones, I., and Wilkes, K. (2006) The perceived social impacts of the 2006 Football World Cup on Munich residents. *Journal of Sport & Tourism*, 11(2): 129-152.
 - 14) 朴永晷・秋吉遼子・稲葉慎太郎・山口志郎・山口泰雄 (2012) スポーツツーリズムによる地域活性化のアクションリサーチ——沖縄県名護市のスポーツ観光のまちづくりを目指して——. *SSFスポーツ政策研究*, 1 (1): 150-159.
 - 15) Pizam, A., Milman, A., and King, B. (1994) The perceptions of tourism employees and their families toward tourism. *Tourism Management*, 15: 53-61.
 - 16) Waitt, G. (2003) Social impacts of the Sydney Olympics. *Annals of Tourism Research*, 30(1): 194-215.
 - 17) 山口志郎・秋吉遼子・山口泰雄 (2015) スポーツツーリズムの社会的効果に関する実証的研究: 沖縄県名護市における地域住民の性別比較. *体育・スポーツ科学*, 24: 19-29.
 - 18) 山口泰雄 (2014) 第10章スポーツツーリズム. 大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編, *観光学ガイドブック——新しい知的領野への旅立ち——*. ナカニシヤ出版: 京都. 212.
 - 19) 山口泰雄編 (1996) *健康・スポーツの社会学*. 建帛社: 東京. 32.

別紙 1

川越市のスポーツに関する調査

本調査は、川越市政策財政部オリンピック大会準備室協力のもと、川越市のスポーツ振興に対するニーズと川越市のスポーツイベントに関する調査を行い、今後の川越市のスポーツ環境に役立てることを目的としています。ご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理いたしますので、個人の情報が公開されるようなことは一切ございません。また、他の目的には使用いたしません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

東京国際大学 上代圭子・秋吉遼子

問1. 過去1年間に、どのくらい運動やスポーツを実施しましたか？ **あてはまる番号1つに○をつけてください。**

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 週に3日以上(年151日以上) | 2. 週に1~2日(年51日~150日) |
| 3. 月に1~3日(年12日~50日) | 4. 3か月に1~2日(年4~11日) |
| 5. 年に1~3日 | 6. しなかった |

問2. スポーツをもっと振興させるために、国や県または市町村に今後どのようなことに力を入れてもらいたいと思いますか？ **あてはまる番号すべてに○をつけてください。**

1. 各種スポーツ行事・大会・教室の開催	2. 地域のクラブやサークルの育成
3. スポーツによる出会いや交流の促進	4. スポーツ指導者の養成
5. スポーツに関する広報活動	6. 学校体育施設の開放・整備
7. 野外スポーツ活動施設の整備	8. 野外を除く各種スポーツ施設の整備
9. スポーツに関する国際交流の振興	10. スポーツに関する科学的研究の促進
11. スポーツボランティアの支援	12. 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の推進
13. 年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラムの開発普及	14. 運動量の目安となる指針・基準の策定や健康・体力相談体制の整備
15. スポーツに係る事故・外傷・障害の防止	16. 力を入れてもらいたいものはない
17. わからない	18. その他()

問3. 川越市のスポーツイベントとイベント(スポーツ以外)にかかわったことがありますか？ また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会にかかわりたいと思いますか？ **①参加者、②観客、③スタッフ・ボランティアの参加形態それぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んでください。**

	①参加者		②観客		③スタッフ・ボランティア	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
1)川越市のスポーツイベント	1	2	1	2	1	2
2)川越市のイベント(スポーツ以外)	1	2	1	2	1	2
3)2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会	1	2	1	2	1	2

裏のページへ進んでください

問4. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京オリパラ」)のゴルフの会場として、埼玉県川越市にある霞ヶ関カンツリー倶楽部が予定されています。東京オリパラ開催期間は、ゴルフの観戦を主な目的とした観光客が、川越市に大勢来ることが予想されます。川越市にどのような影響を及ぼすと思いますか？ 下記1)～17)のそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んでください。

	とても 思わない	そう 思わない	どちら でもない	そう 思う	とても 思う
1)東京オリパラ開催は、川越市のイメージを向上させるだろう	1	2	3	4	5
2)東京オリパラ開催は、川越市の住民の多様な文化活動を促進するだろう	1	2	3	4	5
3)スポーツ観光客と交流することは、川越市外の文化や社会を理解する貴重な経験になるだろう	1	2	3	4	5
4)東京オリパラ開催は、川越市の文化的イメージにプラスの影響を与えるだろう	1	2	3	4	5
5)東京オリパラ開催により、川越市の住民は個人的にプラスの影響を受けるだろう	1	2	3	4	5
6)東京オリパラ開催は、川越市における犯罪率を増加させるだろう	1	2	3	4	5
7)スポーツ観光客の増加により、川越市の住民の生活に支障がでるだろう	1	2	3	4	5
8)東京オリパラ開催により、川越市の公園やレクリエーションの場が増えるだろう	1	2	3	4	5
9)東京オリパラ開催により、川越市の道路と公共施設は高い水準を維持できるだろう	1	2	3	4	5
10)東京オリパラ開催により、川越市の自然環境の保護につながるだろう	1	2	3	4	5
11)東京オリパラ開催により、川越市の景観が良くなるだろう	1	2	3	4	5
12)東京オリパラ開催は、川越市に交通渋滞、騒音、汚染を生じさせるだろう	1	2	3	4	5
13)東京オリパラ開催は、川越市においてさらに雇用を促進するだろう	1	2	3	4	5
14)東京オリパラ開催は、川越市の住民と中小企業に経済的利益を与えるだろう	1	2	3	4	5
15)東京オリパラ開催により、川越市の住民の生活水準は向上するだろう	1	2	3	4	5
16)東京オリパラ開催が原因で、川越市における商品とサービスの値段が高くなるだろう	1	2	3	4	5
17)川越市における東京オリパラ開催を支持する	1	2	3	4	5

問5. あなた自身についておたずねします。

性別	男性・女性	年齢	満()歳
居住地	川越市外 ・ 川越市 → 川越市の居住歴	()年	
職業	1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 学生 5. 専業主婦 6. パート・アルバイト 7. 無職 8. その他()		
現在、定期的に行っているスポーツ(複数選択可)	1. ランニング 2. ウォーキング 3. 水泳 4. 体操 5. 野球 6. サッカー 7. テニス 8. ゴルフ 9. バスケットボール 10. バレーボール 11. ヨガ 12. その他() 13. なし		

以上で質問は終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。